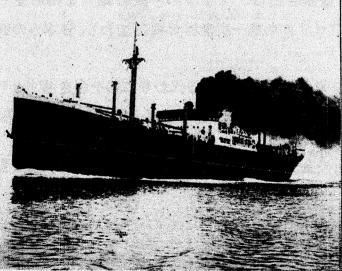
すずきしょうてんしんしゅつ しゅうねん 一鈴木商店進出100周年-

はりまぞうせんしょ あいおい きんだいか播磨造船所と相生の近代化

こともむ (子供向けチラシ)



はりまでうせんしょ けんざい アイエッチアイ けんぞう 播磨造船所(現在のIHI)で建造された6隻の船鉄交換船のうちの1隻である、イースタン・ソルジャー号のしんすいしき



完成したイースタン・ソルジャー号

はりまぞうせんしょ 播磨造船所について



からはたせいたろう

めいじじだい おうむら まず ぎょそん 明治時代の相生村は貧しい漁村でした。

からはたせいたろう ひめじししきとうちょう あこうぐん 唐端清太郎は、姫路市飾東町で生まれ、赤穂郡の役所で働いていました

が、明治25年(1892年)に相生村の村長としてまねかれました。

からはたせいたろう おう さか あこうぎょぎょうくみあい 村長になった唐端清太郎は、相生を栄えた町にしようと赤穂漁業組合を ぎょぎょう さか とりょく つくり、漁業が盛んになるよう努力しました。

ではりませんぎかいぎいん からはたせいたろう おう そのご、明治 36 年(1903 年)兵庫県議会議員になった唐端清太郎は、相生 でうな に することをめざし、「造船所をつくれば船がはいり、人が集まり、相生が栄える」と考えて、明治40 年(1907 年)播磨船渠株式会社をつくりました。

そのあと、大正5年(1916年)に、唐端清太郎は播磨船渠株式会社を大きくしようと、その当時、日本一の商社であった鈴木商店に造船所のけいない 経営をまかせました。

はりませんきょかぶしきがいしゃ かぶしきがいしゃはりま このときに、会社の名前が、播磨船渠株式会社から、株式会社播磨 そうせんしょ げんざい アイエッチアイ 造船所(現在の I H I)にかわりました。



サザきしょうてんてんしゅ 鈴木商店店主 サザき 鈴木よね

せん てつこうかんせん

船鉄交換船について



かねこなおきち金子直吉

日本は船などをつくるための鉄の生産が、すくなかったので、鉄をイギリスやドイツから輸入していました。

大正3年(1914年)に第一次世界大戦が始まると、ドイツは日本への鉄のゆしゅつ きんし たいしょう 輸出を禁止、大正5年(1916年)にはイギリスも日本への鉄の輸出を禁止しました。

そのため、日本の造船会社はアメリカから鉄の輸入を始めましたが、たいしょう 大正6年(1917年)、アメリカも第一次世界大戦に加わり、日本への鉄の輸出を禁止しました。

日本政府は、アメリカから鉄を受け取る代わりに船を引き渡すという船と まうかん せんてっこうかん 鉄の交換(船鉄交換)の話し合いをしましたが、話し合いはすすみません

でした。

せいま しょうかいじょう かねこなおきち たいしかん 日本政府からの紹介状を持った鈴木商店の金子直吉はアメリカ大使館のモリス大使と話し合い せんてつこうかん やくそく をし、船鉄交換の約束をしました。

その約束をもとにアメリカに輸出された船は 45隻になり、そのうちの 5隻は株式会社播磨 せかけんしょ けんぞう 造船所で建造されました。